

令和7年度第1回 川崎市観光振興計画推進委員会 会議録

- 1 開催日時：令和7年9月22日（月）15時00分～17時00分
- 2 開催場所：川崎市役所本庁舎復元棟1階101局会議室
- 3 出席者：委員 松本会長、宍戸委員、青木委員、萩原委員、星川委員、三瓶委員
事務局 池田観光・地域活力推進部長、森担当課長、中村担当係長、浅沼担当係長、福井職員、矢島職員、上中職員、吉野職員
- 4 議事：(1)（仮称）次期「川崎市観光振興計画」素案の状況について
- 5 傍聴者：0人
- 6 会議内容

森担当課長

本日は、お忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、「令和7年度 川崎市観光振興計画推進委員会」の開催に先立ちまして、事務局から事務連絡をさせていただきます。

まず、議事に入る前に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

資料をご覧ください。表紙には附番がございませんが、1枚おめくりいただいた右下に1とページ番号を附しております。これが41ページまでの資料となっております。皆様、不足はございませんでしょうか。

続きまして、本会議は、半数以上が出席しなければ、会議を開くことができないとされておりますが、本日は6名の方に御出席をいただいております、委員数8名の半数以上となることから、会議が成立していることを御報告いたします。

また、本会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき、公開の会議となります。本日の会議の議事録につきましては、後日、事務局から確認のお願いをさせていただきますので、あらかじめよろしくお願いたします。

事務連絡は以上でございます。

それでは以降の議事について、会長、進行をよろしくお願いたします。

松本会長

それでは、次第に沿いまして、進行いたします。『（仮称）次期「川崎市観光振興計画」素案の状況について』、事務局から説明をお願いします。

森担当課長

－（略）資料説明－

松本会長

ありがとうございました。只今、事務局より説明をいただきました。現在、市役所内の検討部会でも検討を進めていただいていると思います。こちらにつきましては、皆さんご存じのように、検討部会の会長の進行ということで認知をされております。宍戸会長や萩原委員をはじめとする部会の皆さんによってご議論が進められています。

そして、只今ご説明いただきました森課長さん、中村係長をはじめとして、観光プロ

モーション推進担当の皆さんが大変なる努力をしてくださっていると思います。未完成的なところはあると思いますが、努力をしてくださり、大変ありがとうございます。

こちらにつきましては私たちの会議の後に検討部会が行われますので、市の附属機関条例の規定により、検討部会の決議を附属機関の決議とし、今後引き続き検討を進めていくということになります。

推進委員会としての議論は今回で最後になりますので、そのあたりを踏まえて、議論を進めていきたいと思っています。

先程の事務局からのご説明で大変詳しく伺いましたが、ご質問やご意見がございましたら、挙手をし、意見等をご発言いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

話しにくいようでしたら、部会に参加していらっしゃる方々に、こういったことを強調したいなどをお話ししていただきましょうか。最初に宍戸委員より、よろしいでしょうか。

宍戸委員

ありがとうございます。部会に参加をしている関係で、概ね今後の内容は理解して進めてきております。しかし、理解はしておりますが、日々色々なことが検討されて変わっていき、細かいところまで調整の努力をされていると思います。こういった観光計画を立てるときに、よくあるパターンとしては、外部のコンサルなどに依頼をして作っていくことが多いです。しかし、今回は市が中心となり、参加していただいた委員の皆さんの色々な意見をいただきながら、想定した回数以上に議論が深まり、その中で色々な可能性を考え、作り上げました。

そういった意味では、私の認識では、実際に各地域で活躍をしている方や事業者さんの思い、哲学はどうしてもデータには表れない。一方で、インバウンドも含め、それでも活躍をされている方が多かったのも、それぞれの肌感で感じる部分や色々な点をご指摘いただきながら、かなり未来に向けてチャレンジをしていく部分も多いのかな、と思っております。

データに沿っていくと、ありきたりのものになります。そういった意味では、今回の観光計画は色々な新しい観光の分野、都市観光や生活観光地という視点もありました。やはり川崎の魅力は地方のリゾート型の観光地というよりも、都市のように生き生きとした、場合によってはディープな日本らしさ、または面白さのあるような観光地ではないかということに基づき、整理をしてきたというのが1つあります。その中に、スポーツや工場夜景を含めた新しいコンテンツを盛り込み、作ってきました。

もう1つ後半に出てきましたが、組織体制の計画を作るのは簡単ではないです。作ることはできても、実際に私もこの委員会で意見を求められて、160近くの項目を聞いて、その都度コメントをするということに留まっていた。なかなかリアルタイムで、皆さんと議論をしながら、観光推進をしているプレーヤーと一緒に活動をしていくということは難しかったのではないかと思います。

そういった意味で、すでに地域で活動している方や色々な試みをしたいと思っている方、現在観光協会ではインバウンド人材育成も行っております。新しい観光ビジネスや

インバウンド対応をしたいという事業者さんも育成しております。またはシビックプライドにも繋がりますが、住民の方が観光への理解を高めるとともに、観光推進を深めていただき、皆様の力を合わせて組織を動かしていく。

大変恐縮ではございますが、観光協会をはじめ、市の中にも色々な組織がありますが、人材的に十分ではないという現実があります。そのため、現場ではご苦労もあると思います。

また川崎という大都市においても、観光予算は非常に少ないというのが現実です。こういった本質的なところにしっかりと目を向けて改善をしていくことを、今後のフェーズの設定として作ってきました。

他の地域の計画に比べて、ある意味グラウンドデザインをしっかり描き、予算や人の配置などを色々組み込んでいく。どこまでできるのかはわかりませんが、その辺りをやらずしてイメージだけで観光の活動や様々な対策だけをしてダメなのではないか、ということで、かなり議論がされたと思っております。

同じようなお話しになってしまいましたが、私としてはそのような理解で、皆さんと議論をしてきました。

1つだけ、先程森課長がおっしゃっていた内容としては細かい点はいくつかあると思いますが、目標とする数値はなかなか難しく、7割の市民から共感を得るということはかなり難しいと思います。ここは60%でも高いなと思いました。これは現実的にかなり難しいと思いました。外国人についても同じだと思います。オーバーツーリズムへのマイナスイメージもあろうかと思えます。

そのため、観光庁も2030年のインバウンド観光者数の目標を6,000万人と出しておりますが、果たしてこの数字をそれに当てていくのが良いのか。今回元々あるデータがないのかもしれませんが、少し聞いていて気になりました。全体については以上です。

松本会長

ありがとうございました。萩原委員、どうぞ。

萩原委員

部会のメンバーは観光について、とても熱い気持ちを持ち、毎回それぞれがパワフルな議論になっていました。それをうまくまとめられて、行政側でも各所で議論がなされて、議会、市長などのいろいろなところで修正もあり、目まぐるしく内容が変わっていくのはとても苦労されて作られたことを感じました。部会も一生懸命作り上げたことは確かです。

私個人としては、行政もきちんと入り、中も変えていきながら、組織として観光協会を変えていくことでそうなるのか、観光協会の上に司令塔を作った方が良いのか、そのあたりは分けるということも考えられるかもしれません。それに向かって、人の問題や財源の問題などの大きな問題を抱えながら、旗印はしっかりとうたっておいてほしいです。このような話もあったが、やはり無理でした、というのはとても残念です。

4年ずつ3回というのもわかりますが、ひとつずつ成果を挙げるために引っ張っていくデザインや企画をしていく。そういった組織を作り、そこに皆が繋がるということがとても大事だと思います。それに向けて動いていってほしいなと思っております。それ

ができると、川崎にもこんなに楽しいものもあるので入れてみよう、となると思います。

総じて、川崎に住んでいる方もとても楽しい街だね。色々な情報がわかり、今日はこのようなことをやっている。ふと訪れた方も、近くで何かをやっているのかなと思うと行ってみようなど、街の活性化と経済効果に繋がっていく。市長さんもおっしゃっていましたが、100周年のやり方のように楽しめる街。皆さんが来てよかったな、というところに落とし込め、経済的にも効果あるような観光の目指すところだと思います。

今は、どこでもオーバーツーリズムの話は出ていますが、そういったデメリットが多くなると、拒否反応も出ると思います。「いいよ、外国人は来なくて」というのが増えてくると思います。豊かさ、楽しさ、幸福度などを増していくために観光は良いよね、という観点で出たのが「ヒルカワ、ヨルカワ」という考え方です。これはとても素敵だと思います。ぜひ具体的に動いていくと良いなと思います。以上です。

松本会長

ありがとうございました。皆さん、色々と時間を使っていただきました。部会とは別に有志の勉強会も行われるなど随分煮詰めてお話をいただいたと聞いております。

考えてみますと、以前の新・川崎観光振興プランの時にも携わっておりまして、様々な推進体制なども考えてきましたが、実際に進める中でなかなかうまくいかない点もございました。今回はその点についてもかなり議論をされていて、どのような形になるのか楽しみです。

ということで、他の委員の皆様からもご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。どうぞ。

青木委員

感想ですが、大変よくまとまっていると思います。その辺りのご苦労は、松本先生、宍戸先生はじめ部会の萩原委員、そしてこの計画をまとめていただいた、川崎市経済労働局の方々に改めて敬意を表します。

また私自身が所属する観光協会の体制や役割の重要性を改めて認識するとともに、実現性に近いような体制にしなければいけないと実感いたしました。

このプランの上位プランである総合計画との整合性はどうか。大型バスの設置は経済労働局だけではできないと思います。ソフトとハードの両方があると思います。特にインバウンドだけではなく国内の観光客を意識しても、きたテラスがインフォメーション・センターとしてありますが、少なくとも交通の結節点でもある武蔵小杉や武蔵溝ノ口、登戸や新百合ヶ丘などでインバウンドに向けて細やかなインフォメーションサービスをしていかないと厳しいのではないかと思います。

例えば、横浜の観光地は固まっていますが、川崎は魅力が分散しているので、イベントなどを含め、インフォメーションサービスが必要だと思います。きめ細やかなサービスがどうできるのか、というのがかなり重要だと思います。

例えば、11月に予定をしている市民祭りは、数多くの市民の方たちが集まると思います。インバウンドの方を意識したものになっているのか。改めて考える必要があると思います。

川崎で行ういろいろなイベントに対して、常にインバウンドの方を意識した視点が大切です。様々な開催のあり方も、これから考えていかなければと感じました。

ハードの面でいうと、川崎は旧東海道で神奈川県の出発点でもあります。六郷の渡しがあった多摩川は国の管理のため、なかなか市は動かせませんが、船着き場が設置されれば、工場夜景を楽しむ利用者の増加や地元商店街への経済効果も期待できます。国はスーパー堤防を整備する際に考えていきたいと思いますという見解です。しかし、スーパー堤防はいつまでに整備されるのか、全く見通しが立っていません。スーパー堤防が整備されるまでの間、仮設栈橋があると良いと思います。

例えば、横浜市の場合は桜木町の駅を降り、横浜市役所へ行く橋の袂に、屋形船の栈橋が整備されています。駅を降りてすぐですし、そういった利便性をぜひ整備していただくと良いかなと思っています。

いずれにしても、大変よく計画として完成したと思っています。ただ実行する私も観光協会としても、なお一層努力をしていかなければいけないと痛感いたしました。以上です。

松本会長

ありがとうございます。事務局からお答えが必要ですかね。

森担当課長

受入れ環境の充実としては、観光案内所はきたテラスがありますが、今後川崎北部エリアではよみうりランド園内に『ポケパーク カントー』ができます。品川などからも誘客が図れる魅力的な観光資源だと思いますし、羽田から来るインバウンドの方も目指していくと思いますので、できるだけ周遊観光ができるような仕組みも考えていきたいと思っています。

観光案内については新たに案内所を設けるほかにも、さまざまなやり方があると思いますので、そのあたりについては並行して考えていきたいと思っています。受入環境については経済労働局としても充実をさせていきたいと思っています。

青木委員

もう1つお願いですが、観光計画を進めるには単に経済労働局だけの事業ではないわけですね。例えば、インフラを担当しているセクションが常にこのプランを意識した上で、それぞれの局が予算化を行っていく体制や環境を作っていただきたいと思います。

三瓶委員

受入れ環境の充実というところで、今おっしゃられたと思いますが、交通ネットワークの整備は非常に重要だと思います。大きな話になると思いますので、局内もしくは市役所内で連携をしていただきたいと思います。

あと電子決済は、やはり外国の皆さんは現金を扱うということがないですね。この辺りの飲食店さんや中小企業さんは、ほとんどが現金で、PayPayなどの電子決済を取り入れることが難しい企業さんが多い状況です。市内で宿泊をしたとしても、食事や観光は東京です。そういったハードルも観光という観点で充実させていく必要があると思いますし、商工会議所の大きな役割の1つだと思っています。

あとは計画の中で昨今の進歩である AI について触れられておりませんでした。ぜひそういったところ、企業の AI 活用などは経済労働局さんの所管でもあると思いますので、AI という事なども取り入れていく必要があると思います。以上です。

松本会長

ありがとうございます。たしかに様々な視点がありますね。

央戸委員

電子決済については部会ではたくさん話し合ってはきていないと思います。事業者の皆さんによっていろいろなステージがありますので、なかなか難しいところです。

萩原委員

前に比べると、劇的に増えましたよね。商店街は嫌がっていましたが、PayPay が手数料ゼロの大きなキャンペーンを実施した際に、商店街に話を通してくださったのだと思います。その際に一気に広がりました。現在、PayPay を実施していないところを探す方が難しいのではないかと思います。

しかし、いろいろなクレジット決済や QR 決済、タッチ決済など、機械等も必要のため、読み込んで支払うというのはここまですることができるという限界もあり、全てができるわけではないと思います。劇的に増えたことは間違いないです。

それまでは、皆さんは手数料を取られるのを嫌がっていましたが、現在は選んでいる場合ではないですよ。その点はとても進んだのではないかと思います。

タクシーの中でも、かなり支払い方法が増えましたよね。画期的だと思います。

三瓶委員

タクシーは、個人タクシーが電子決済を実施していない場合があります。

萩原委員

そうですね。

三瓶委員

そういう時はどうするのだろうと考えてしまいますよね。

青木委員

商店街が導入する場合は、支援やシステムなどは会議所や市にはありますか。

三瓶委員

神奈川県は、DX を導入するにあたっての初期費用などの補助金が出ます。

萩原委員

補助金が出たので、一斉にいけたのではないのでしょうか。商店街は嫌だと言っていたので。

三瓶委員

補助金の額はそれほど多くないですが、人気だと思います。

松本会長

PayPay が全国的に普及をした大きな要因は、県や市が還元率を高めた施策をうったこともあるでしょうね。特に市民以外の方にもその還元が利用できるという地域もあり、域外からの誘客にも繋がるといった事例もありました。それによって人が集まってくる。かなりうまくやっていますね。

萩原委員

「川崎じもと応援券」の実施の際も、紙ではなく、スマホになってしまい、とても嫌だという人も多かったですが、だいぶ進んできてのではないかと思います。

先程、船の話が出ていましたが、私も気になっていたところです。

京急川崎のところにアリーナができると、すぐ後ろに多摩川があり、川崎駅からアリーナ寄り、アリーナから多摩川寄り。その辺りを居心地の良い場所にして、そこに船を持ってくるとい話もありそうですよね。時間帯によって潮の高さが違うんですよね。どのくらいの船が置けるかというのは、時間帯にもよりますが、それを絶対にやりたいと言っていました。

六郷橋の件が、なかなか進まないのであれば、それより先に舟遊びや多摩川遊びができれば良いと思います。

青木委員

多摩川は浅いので大型の船は難しく、喫水の浅い底が平らな船に限られると思います。川崎区の六郷橋のイベントでも、横浜あたりから船を持ってきました。2日間のイベントで仮設の栈橋だけで約300万円かかりました。今年はその予算がないので、で開催できませんでした。すぐ近くに15,000人規模のアリーナができるわけですから、そういう船ができれば横浜や東京からお客さんを誘致できる1つの交通手段にもなると思います。

松本会長

他にいかがでしょうか。

星川委員

細かい話でも良いでしょうか。せっかくこれだけ立派な資料を作成いただきましたが、お送りいただくのが直前になってしまってなかなか読み切れなかったところが残念ではございました。

9ページの令和6年度の入込観光客数がコロナ前より回復しておらず、私の地元でもありますがお大師さんの入込観光客数の影響があるのかなと思いましたが、その辺はいかがでしょうか。

萩原委員

東芝未来科学館もクローズになりましたよね。私は、その数字で影響があるのかなと思いましたが。

森担当課長

いくつか要因はございます。

星川委員

数字の大きい部分を教えてほしいということが、1つです。

14ページは、とても面白い題材を出していただいていると思います。訪日外国人はどこに来られているのか。川崎区や幸区に多いですよ、ということですが、当然区全体の話ではなく、そこに観光スポットなどがあるので数字が上がったと思います。

例えば、幸区はミュージアムやラゾーナなどが駅直結であります。幸区のそれ以外のエリアには、何かあるのでしょうか。また、直前・直後の消費エリアのデータもとても面白

いですね。コロナ前の2019年との比較の増減と順位が出ていますが、以前から、こういった数字をとっていたということでしょうか。そういったところも見て、実数が出ていないので、比較の意味が分からないという点です。

もう1点は、22ページです。先程、宍戸委員からも市民の受入意向のパーセントのお話もありましたが、市民の受入意向というのはなんでしょうか、教えてください。

27ページの“川崎市は他の地域に比べて欧米豪からの来訪者の割合が多くなっている”と記載をされておりますが、川崎市の状況はどこにそのデータがあるのかというのは、こちらの表が川崎市の出典なのか、右側の表にはタイトルがなさそうです。こちらは、かながわDMOからのデータだと思いますが、神奈川全域を見ているのではないかと思います。そうすると、米国やオーストラリアなど、黄色マークにしている欧米は神奈川県の話であって、川崎市ではないのではないかと思いますでしょうか。

私は駅前しか知りませんが、欧米人をあまり見たことがありません。欧米豪が多いというのは本当かな、と思っています。それぞれ資料の内容について、教えてください。

森担当課長

最初に9ページの入込観光客数については、各施設から個別の施設名称を非公開とすることを前提としてご提供いただいているため、申し上げにくい点もございますが、市民ミュージアムが台風15号の影響で長期間閉鎖したりなどして、閉館した場所がいくつかございました。数字の多くを占める施設からは、コロナの影響であると伺ったところですが。入込観光客数については、施設で数えている数字をいただいております。新しい施設は、例えば浮世絵ギャラリーやカルツなどできています。本来であれば、都市観光の観点から川崎駅周辺の観光客なども数えることができればよいのですが、当初計画を作ったときに入込観光客数として設定したということもございまして、計画期間中は継続して指標としてきたところでございます。

14ページです。まず左側の図に関しては、8割というのは宿泊をしている方になっていきます。もちろん中原区にもありますが、宿泊施設が川崎区と幸区に集中していますので、延べ人数に対して、このような数字になっております。藤子・F・不二雄ミュージアムにもいらっしゃっていますが、なかなか消費に結びついておらず、数字としては上がっておりません。基本的に来ている数としてではなく、消費した数になりますので、左側の図のように8割が川崎区と幸区となっております。

幸区については、消費をした数になりますので、宿泊施設やラゾーナなどが多いのだろうと認識をしております。基本的には川崎駅周辺となっております。

表については、外国人動態分析調査を始めたのが平成29年ごろになりまして、当初は携帯のGPSでどういった方が訪れているのか、という調査でした。しかし、消費の数字がほしいとなり、コロナ前の平成31年に同じデータを三井住友がとっておりますので、新たに調査をしようとなったときに消費の比較ができるようにしたものです。

星川委員

その時の順位と今回の順位は、どう違うのかを教えてください。

森担当課長

その当時、私は直接の担当ではなかったのですが、やはり羽田空港から近い大田区は

非常に増えていました。理由としては、空港の直前利用かなと思います。川崎区は、羽田空港に依存をしていたと認識しております。

星川委員

1位と2位の差がどのくらいあるのか、資料では読み取れないですね。

森担当課長

そうですね。実は全体はパーセンテージで表すことができますが、事業者との契約の中で人数は出せないということになっておりまして、全体の中でどれくらいのパーセンテージになるのか、という図になっております。

22ページについては、こちらは初めて観光として市民アンケートを行いまして、1,500人の回答があったものです。「川崎が国内観光として増えることについてどう思いますか」という質問に対して、大幅に増えてほしいが12.1%、多少増えてほしいが47.9%、となっていて、大幅に増えてほしい・多少増えてほしいを合わせるとぴったり60%となったものです。

星川委員

日本人も外国人も、来ていいですよということなのでしょうか。

森担当課長

先ほどの60%は、「国内観光客が増えることについてどう思いますか」という設問でした。

やはりオーバーツーリズムのような懸念もございまして、外国人旅行者に対する受入れ意向としては40.3%となっております。この指標案はどうかと私たちも考えております。

星川委員

要するに、観光客を60、70%受け入れるということは、みんな喜ぶということですかね。オーバーツーリズムと反するような気もしますが。

森担当課長

私たちは、当初始めたときは、市民の方が「川崎に来てほしい」とどれくらい思っているのか、3割～4割ほどと想像していましたが、6割というのは驚きました。この点については一旦、数字として出ていますので、記載をさせていただいております。

一方で、都市イメージ調査での来訪推奨度は、23ポイントでした。

星川委員

説明を聞いて分かりましたが、初めて見る方は分かりませんか。

森担当課長

少し解説が必要かもしれません。来訪が増えるのは観光施設としては、良いことだと思っておりますが、市民の方にとって良いことかどうか、というのは違ってくるかもしれません。

星川委員

指標の案としては、「来てください」という方が10%増えるということを予想しているのでしょうか。

森担当課長

ということを仮の目標として設定はしておりますが、今後検討部会等でも議論をしていきたいと考えております。ちなみに東京都でも同じような指標設定をしております。

松本会長

もっと来て、知ってほしいということですよ。

森担当課長

今回のプランでは、住んでいる人も訪れる人も共に楽しい、川崎らしい観光、というビジョンになっておりますので、住んでいる人たちも観光地としていいよねと思ってもらえるような計画にしたいと思っております。住んでいる人と訪れる人が共に、となつておりますので、こういった指標があった方が良く、入れさせていただきましたが、今のところ指標としてはどうかな、と思っております。

星川委員

観光業の方々にとっては人が増えるのは良いですが、非観光業の方にとってはわかりません。

森担当課長

そこは、分かりません。

萩原委員

楽しい交流もできれば、良かったと思えるかもしれないですが。

森担当課長

東京でもこの指標は低くなっています。

松本会長

受入意向ということは、「来てほしい」「もっと知ってほしい」という気持ちがあるということですよ。「たくさん来ているからもう来なくてもいいよ」という考え方もあるかと思っておりますので、ある意味で川崎の観光は発展途上であるという数字が表れたわけですね。

森担当課長

東京はもうあまり来なくていい、という意見が出てきているので、数値は低くなっているのだと思います。ただ、東京都としても都民を重要視して観光振興に取り組むので、こういった指標設定をされているものと思いますが、本市の指標については、少し検討部会の皆様とも考えていきたいと思っております。

続きまして27ページです。こちらは修正いたします。右側の図はかながわDMOが分析しているデータでモバイル空間統計の中の川崎を都市として部分的に出すことができたものです。神奈川県全体も同じ傾向にあるのですが、アメリカが多いです。川崎もアメリカやオーストラリアが多いです。羽田空港の便がアメリカとオーストラリア発が多いため、こういった傾向になっているようです。しかし、これだけではアメリカとオーストラリアが多いとは言えません。日本全国から見て、神奈川県全体から見て、どれくらいの割合で川崎に来ているのかというところは、パーセンテージを出さなければ分からないと思います。その部分は、情報を確認しているところです。

央戸委員

検討部会の中では、観光案内所のきたテラスのデータもありましたよね。私は、それ

も1つの指標だと思っています。

森担当課長

ここだけでは表せないなので、別でデータとして示していきたいと思っております。中国の方も多いため、委員会の中で本当に欧米豪が多いのかという話もありました。その辺りについても、私たちの中でも話し合い、次の部会に向けて示していきたいと思っております。

かわさききたテラスで、どれだけ外国人の方を案内したかということです。

事務局職員

きたテラスだと非常に分かりやすいと思いますが、アメリカが最も多く、次に中国、オーストラリアとなります。ただきたテラスですとデータが小さいので、より広範なデータということで神奈川県データを使わせていただきましたが、傾向としてはどちらも同じ状況でした。

森担当課長

左側の図は、Azira からとっているデータのため、中国の数値が出ないようになっています。かながわDMOは中国の数が出てくるため、データとして参考にいたしました。実際は中国も多いと思います。

萩原委員

そうですね。現場的には、中国が多いですかね。

森担当課長

中国よりも欧米豪の方が、1人当たりの単価が高く、体験型の消費を行うとも言われています。一方で藤子・F・不二雄ミュージアムは台湾や中国に人気があります。

私たちが実施している体験コンテンツに関しては、「ありのままのかわさき」を意識した時に、中国よりも欧米豪の方が刺さるのではないかと。都心の外国人が多い場所よりも、「生活感のある都市」というところが、欧米豪の方が好むのではないかとという仮説のもとに考えているところです。その辺りも含め、この内容だけでは文言が不足しておりますので、しっかりとご説明をさせていただきたいと思っております。

松本会長

他の地域に比べて割合が多いということですね。他の地域は、どれくらいの割合かどうかを示すことができれば、問題ないと思います。

森担当課長

もちろんそういったデータも含め、作成したいと思っております。

松本会長

私の方からも、少しよろしいでしょうか。とても大事な話で、DMOについてです。観光協会の強化のようなこともありますけれども、随分前からDMOができたらいと思っていますが、この辺り、市の意向としてはどうでしょうか。

森担当課長

現状、観光協会と協力しながら観光振興に取り組んでおりますが、DMOとすることについては、「川崎市として観光振興をやっていきます」という対外的なメッセージになると思います。

さらに国の方でも、もう少しDMOを強化していきましょうという方針になっており、財源的な新しいものも出てくると思っております。いろいろなところに話を伺いますと、「しっかり川崎としてDMOをやっていくんだ」と打ち出しをすることによって、人材確保が難しい中ではありますが、民間企業から人を出してもいいという話もあると思います。

今後4年間で観光を強化していく中で、そういった組織の観点についても私たちの方向性を出していきたいと思っておりまして、市の内部でも様々調整をしているところです。

松本会長

将来的に考えて、DMOでなくてもDMCでも良いかもしれないですね。

森担当課長

それももちろんです。

松本会長

それを市と観光協会ですべてくるというのが、理想的だと思っています。

萩原委員

国からしっかりと予算をもらえれば、先程の民間のプロが入ったり、金融機関など、さまざまなところが入ったり、組織が強化され、いろいろなところからの財源もありつつ、下にたくさん紐づき、皆でやっていければ良いかなと思います。

青木委員

そうするには、魅力ある観光協会に育てていかないといけないですね。きちんとメリットが見える形で取り組んでいかないと。いろいろ市とも協力をしながらやっけないといけないと思います。

松本会長

DMOのメリットみたいなものが見えてくれば、少し変わってくるのではないかと思います。例えば、4年間、12年間の中で、なんらかの見通しやビジョンが伝わるといいと思っています。非常によく考えて練っていただいて、まず4年間のことがしっかりと書かれています、12年間の内容があまり見えてこないのです。いろいろな問題があると思いますが、具体的に何をやるか、ということが重要です。そうすることにより、次の4年間、その次の4年間となっていきます。4年間「検討します」だけとなると、どこに向かっているのか分からず、不安感があると思いました。書き方かなと思います。

新・かわさき観光振興プランは、我々が意見を伝えて、まとめていただきました。その後、観光振興プランがどうなっているのか。最初は10年間。さらに、数年ごとに区切りました。最初の数年で、どこまで持っていくのか。全体構想として12年間このようになってくる、その目標を達成するためにまずはフェーズ1で動いて、それを達成できたらフェーズ2に行くのは簡単だと思います。しかし、できるかできないかは分からない。フェーズ1の目標が達成できなかったなら、フェーズ2はより目標に近づけるように取り組んでいく。そういう風な全体の説明があると、より伝わりますし、納得してもらえます。その点をご検討いただきたいと思います。

森担当課長

全体の12年間の見せ方というのは、非常に重要だと思います。全体12年については、今回の計画案では”ビジョン”といったものは12年として、それに向けてまずフェーズ1としてこういうことに取り組んでいこうという風につくったところですが、見えづらい部分はあると思いますので、もう少し資料も整理できればと思っています。

令和10年くらいには、さらにフェーズ2に向けて進めていきたいと思っていますので、全体の12年については見せ方として考えなければいけないと思っています。

松本会長

かなり抽象的な言い方でも良いので、最初にこうですと示して、それを実現するためにこれらに取り組みます、という形で伝えることでしょうかね。一步一步やっていくことが重要で、どういう風になるかが伝われば安心できるかと思います。

まだ時間がございますので、他にいかがでしょうか。どうぞ。

星川委員

DMOの話ですが、感想としては観光協会さんがとても大変だなという印象でした。DMOは、10年前に日本版DMOということで、観光庁で推奨をしておりますが、この登録団体を市役所で設けなければいけない、とはなっていないですよね。

森担当課長

なっていないです。

星川委員

なっていないですよね。あくまで任意ですよね。DMOに協力をすると、助成金がありますよとか、それでもって人員を増やすことができますよ、というおいしい話もあるわけですよね。

森担当課長

それは可能性としては、あるかもしれません。

星川委員

今後DMOを観光協会として進めていこうというのは、とても大変そうだと思います。観光協会が平気ですということであれば良いのですが、個人的な感想です。

青木委員

現在県内では、相模原市がDMOとなっています。相模原市が、どう推移していくのかを十分に研究させてもらおうかなと思っています。そこまで観光資源が多いところではない。相模原市が、DMOを立ち上げて取組み始めましたので、どう推移していくのかというところを十分見極めたいと思っています。その上で市とも相談しながら検討してまいります。いい意味でも、悪い意味でも、相模原市をモデルとしていきたいと思っています。

星川委員

もう一点、「ヒルカワ・ヨルカワ」についてです。昼は分かりますが、夜でイメージをするのは、駅周辺の繁華街をイメージしているのでしょうか。「ヨルカワ」は飲食店を中心としたものが、観光の1つになるのかと思います。産業観光・工場夜景も夜でしょうか。

特にインバウンドですが、いちばんまちに行って困るのは、サインが少ないという印

象があります。今回そこには一切触れていないですよ。それは問題ではないのか。または、今皆さんはスマホを持っているので必要がない。そういう時代ですよ、というところまでお考えになって動いているのか。今、表示自体は難しいけれど、QRコードを貼り付けて、そこで多言語案内をしている例もあります。観光で来られた方は、その部分が大事だと思います。

もう一点、「川崎らしさ」というのを打ち出していると思います。まちづくりをするときに、いつも出てくるフレーズだと思います。「川崎らしさ」というのは、人によってかなりバラつきがあります。若い人と高齢者では全く違います。また、川崎らしさの達成度は80%、みたいな数値化は非常に難しい、むしろできないのではないかと思います。「川崎らしさ」がバラついているわけですから。ですが、あえて踏み込んで書き込んでいるのはその辺も織り込んでのことか。「川崎らしさ」を出したいよね、というのはいつも言っています。少なくともデータでは出てこないと思いますので、この辺りがプランを読んで気になった点です。

松本会長

「川崎らしさ」というのは、どのようなイメージをもっているのでしょうか。言葉でいうのは難しい。このプロジェクトを通して、「川崎らしさ」がどのようなものなのかということを確認するんだ。そういった姿勢で良いのではないのでしょうか。

森担当課長

ヨルカワのターゲットですが、まず1つは、住宅街ではなく中心市街地のようなところになると思います。訪日外国人の方にナイトタイムエコノミーということでこれまで取り組んでまいりましたが、中心部の川崎駅周辺や溝の口などの繁華街のようなところになってくる。それ以外には川崎夜市ですとか、キラルデッキのイルミネーションだとか、新百合ヶ丘のナイトマルシェ、小杉コアパークでもイベントをやるなど、地域の方々の取組もあると思います。

今回、テーマとして「ヒルカワ・ヨルカワ」にしました。日中は川崎大師ですとか多摩川とか過ごす場所もありますが、夜はなかなかないというところでナイトタイムエコノミーに力を入れましょうと「ヨルカワ」というロゴを作ったこともありました。夜の川崎というのは、工場夜景もありますので、夜の川崎観光で滞在時間を延ばして消費に結びつけるというのが狙いになっています。

多言語表記という点について、当初は入れておりましたが、確かに本当にこれから多言語表記が必要なのか、という内部での議論がありました。スマホですぐ翻訳できてしまうということもあります。受入れ環境の充実、多言語表記の充実というところを含めて、どこまで入れれば良いのか。もし多言語を入れる場合に、英語だけで良いのかということもありますので、他の受入れ環境の全体として記載するか、内部で話しているところです。

最後に、「川崎らしさ」というのは非常に難しいところです。現在の「川崎らしさ」は、川崎の発信というところがあります。どちらかというと、ローカルな「生活体験」のようなことを「川崎らしさ」として考えております。例えば、食であれば地元の個性的な居酒屋があったり、焼肉とキャベツの文化であったりはなかなか他にはないと

思っています。そのほかに私たちが考えているのは、川崎の中でいろいろなプレーヤーの方がいらっしゃいます。例えば、「大師 ONE 博」さんの取組や、「こすぎコアパーク」さんの取組など、それぞれの市民の方々が、観光ではなく地元住民に向けて行っていることなのかもしれませんが、それは川崎市民が作った「川崎らしさ」だと思います。何が「川崎らしさ」かというのは非常に難しいと思います。当初、ローカルと言っていましたが、ローカルも人それぞれ取り方が違うという話もありました。改めて、「川崎らしさ」の定義づけを少し考えていきたいと思っています。

松本会長

どういことが川崎観光か、共通認識にしていくことが必要だと思います。それやっていくのが今回のプランということですね。「川崎らしさ」というのがきちんと共通認識になる。最初の4年の取組ですよ。

星川委員

夜の川崎については、良いイメージを持っている方は、私はあまり多くいないと思います。特に、川崎を知っている人はそうだと思います。そういったイメージは年齢によっても異なると思いますが、マイナスなイメージが川崎に持たれていると思います。

「記憶に深く刻まれる」という表現があったと思いますが、悪いイメージも残ることがあると思います。現実にはマナーが悪かったり、サービスが悪かったりするお店があるのもまた現実です。商店街とかでなんとかしなければいけないことかもしれませんが、そういったことには目を瞑っているような印象もありました。「記憶に深く刻まれる」というところは、住んでいる人にとっては必ずしもプラスには思わないのかなと感じました。ですので、その言葉が気になったので、サービス向上を目指すとかそういった表現の方がいいのかな、とも感じました。

森担当課長

観光振興計画というのは、観光を推進していくためのものと思っています。プラスの形で書いているものが計画ですので、マイナスに捉えられる方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちとしてはプラスのイメージで書いております。

松本会長

そうですね、昇華させていきますという表現なので、マイナスのイメージではないのかなと感じました。新しいイメージを作り上げていくということではないでしょうか。

時間がきてしまいましたが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。いろいろなご意見ありがとうございました。意見を活かしながら、進めていただければと思います。また、今回の観光プランの検討においては、部会に決議を委ねておりますので、引き続き部会の方でしっかりと議論をいただければと思います。ということで、皆さんにお礼を申し上げつつ、本日の議事を終了したいと思います。

どうも、ありがとうございました。

一同

ありがとうございました。

以上